

教育臨床・特別支援教育プロジェクト報告 —心理・教育臨床活動のまとめ（平成18年2月～平成19年1月）—

加藤 義 男*

（2007年2月6日受理）

I. スタッフ

平成18年度研究員は、専任の加藤義男（附属教育実践総合センター）のほかに、教育臨床プロジェクト我妻則明（障害児教育講座）、特別支援教育プロジェクト宮崎真（障害児教育講座）、名古屋恒彦（障害児教育講座）の3名である。外部からの研究協力者として臨床心理士、教員、大学院生等23名（教育臨床プロジェクト15名、特別支援教育プロジェクト8名）を委嘱した。

また、地域連携事業にかかる非常勤職員（心理相談員）として、前年度に引き続き阿部幸成（元養護学校講師、塾講師）を委嘱した。

II. 相談・支援活動

附属教育実践総合センター「心理・教育相談室」における相談・支援活動について報告する。個別相談、コンサルテーションは加藤が中心となって、心理相談員の協力も得て実施したものであり、グループ支援活動や相談会等は加藤が責任者となって、研究協力者、心理相談員の協力を得て実施したものである。

(1) 個別相談

平成18年2月から平成19年1月までの個別相談の来談者は90人であり、その内訳は次のとおりである。①以前からの継続が51人（57%）、平成18年度新規が39人（43%）であった。②

年齢は3歳から38歳。内訳は、幼児9人（10%）、小学生34人（38%）、中学生26人（29%）、高校生12人（13%）、18歳以上9人（10%）であった。③主となる問題の内訳は、「不登校」13人（14%）、「発達障害等（ADHD及びその疑い、自閉症・アスペルガー症候群及びその疑い、LD及びその疑い、発達の遅れ等）」63人（70%）「その他（かん黙、対人不安、チック等）」14人（16%）であった。

月ごとの相談者実数及び相談延べ実施回数を表1に示した。来談者90人に対して、延べ154回の相談を実施した。一回の相談時間は1時間～1時間半程度であり、行動観察、心理テストの実施、プレイセラピー、母親面接、カウンセリング等を行った。

(2) コンサルテーション

34件のコンサルテーションを実施した。その内訳は、16校園（幼稚園・保育園8、小学校2、中学校4、その他2）に出向いての事例検討中心のコンサルテーション実施及び、教育学部内相談室において教員等との事例検討のコンサルテーションを18回実施（幼稚園教員、小中高校教員、その他）。

(3) 不登校児への支援活動（「みんなでチャレンジ」の取り組み）

不登校児支援の会「みんなでチャレンジ」において、不登校児（別室登校含む）及びかん黙児へ

*岩手大学教育学部附属教育実践総合センター

表 1. 個別相談の実施状況（平成 18 年 2 月～平成 19 年 1 月）

月	月ごとの相談者実数	相談延べ実施回数
2月	11人（3人）	13回
3月	20人（4人）	23回
4月	9人（1人）	9回
5月	10人（3人）	11回
6月	10人（2人）	11回
7月	13人（4人）	13回
8月	16人（4人）	16回
9月	7人（2人）	9回
10月	9人（3人）	12回
11月	12人（3人）	13回
12月	10人（8人）	11回
1月	12人（2人）	13回
計	139人（39人）	154回

※（ ）内はその内の新規相談者の数を示す。 ※ 相談回数の中に電話相談 5 件を含む。

の支援活動を実施した。対象児は 11 人（高校 1 年 1 人、中学 7 人、小学 3 人。男子 7 人、女子 4 人。不登校・登校しぶり 9 人、かん黙 2 人）。支援スタッフは 10 人（教育学部大学院生 5 人、学部生 3 人、心理相談員 1 人、及び加藤）である。活動状況は次のとおりである。

- ① グループ活動… 9 回（月一回、土曜日午前中）実施し、参加児は延べ 36 人であった。
- ② 個別支援/心理相談員との一対一の支援を実施した。

(4) ADHD またはその疑いを持つ児童への支援活動（「わっこの会」の取り組み）

「わっこの会」（「いわて ADHD を考える会」の通称。加藤は世話人）として次の活動を行った。

親の集い… 8 回（月一回、平日の午前中）実施した。参加者は 8 人で、参加者は延べ 35 人。親同士の意見交換・情報交換やグループカウンセリングを行った。

(5) 高機能広汎性発達障害児の支援活動（「エブリの会」の取り組み）

「エブリの会」（「いわて高機能広汎性発達障害児・者を考える会」の通称。加藤は世話人）として次の活動を行った。

- ① エブリ教室… 9 回（月一回、土曜日）実施した。参加児童は 7 人（すべて小学生男子）で、延べ参加総数は 57 人である。スタッフは 8 人（教育学部大学院生、養護学校教員等いずれも附属教育実践総合センター研究協力者）。
- ② エブリ談話室… 中学生以上の高機能広汎性発達障害者をもつ親の話し合いの場として実施した。8 回（月一回、平日の午前中）実施した。参加者は 12 人、延べ参加総数は 42 人であった。12 人の保護者の子どもの内訳は、中学生 7 人、高校生 5 人で男性 9 人、女性 3 人である。
- ③ エブリ親の集い… 幼児及び小学生の高機能広汎性発達障害児を持つ親の話し合いの場として実施した。8 回（月一回、平日の午前中）実施した。参加者は 5 人、延べ参加総数は 22 人であった。5 人の保護者の子どもは全員小学生、男子である。
- ④ エブリクラブ… 「エブリ教室」修了生の集まりとして 4 回実施し、延べ参加者総数は 25 人。

Ⅲ. 教育学部地域連携事業としての取り組み

教育学部地域連携事業「学校不適応児への教育的支援事業」について、本プロジェクトが中心となって取り組んだ。取り組みの主な内容は、次のとおりである。

(1) 心理相談スタッフとして、1名の非常勤職員（心理相談員）を依頼した。

(2) 事業

加藤及び研究員、心理相談員が中心となって以下の事業に取り組んだ。

① 個別相談…「心理・教育相談室」における相談・支援活動（参照）

② 市町村教育委員会との共同事業による研修事業

・矢巾町・紫波町教育委員会共同事業による特別支援教育研修会

日 時：8月8日

参加者：20名（小中学校教員）

・久慈市教育委員会との共同事業による学習障害児等相談会

日 時：8月3日

相談者：5人（教員、保護者）

Ⅳ. 研修活動

(1) 公開シンポジウム

岩手県療育センター（仮称）の充実を願うシンポジウム

「ホンネを聞きたい 届けたい」

日 時：平成18年6月10日

対 象：教員、療育関係者、学生、一般市民

参加者：40名

(2) 講演会

① 第8回子どもをめぐる今日的課題への支援フォーラム（軽度発達障害講演会）

「LD、ADHD、高機能自閉症児への教育的支援

の実現に向けて」

講 師 山岡修（日本発達障害ネットワーク代表）

日 時：平成19年1月27日

対 象：教員、学生、一般市民

参加者：136名

Ⅳ. 外部機関との連携・協力

(1) 行政等関連委員会の委員として参加し、地域との連携・協力を図った。加藤による主なものは、「盛岡市特別支援教育支援チーム委員会」、「県発達障害者支援体制整備検討委員会・広域特別支援連携協議会」、「県障害児療育のあり方検討委員会」等である。

(2) スクールカウンセラーとして参加し、学校現場での教育相談に従事した。加藤は、公立中学校に隔週一回（4時間）、附属中学校に年15回（16時～18時）、附属小学校に4回（午後）スクールカウンセラーとして務めた。